

〔No. 1〕～〔No. 20〕は、著作権保護のため、非公表となっています（択一式）。
土木の問題と共通のため、土木の例題をご覧ください。

〔No. 21〕 西洋の庭園に関する次の記述のA、Bに当てはまるものの組合せとして妥当なのはどれか。

〔A〕庭園では、傾斜地の落差を利用し、階段状に連続して水を落とす〔B〕や多様な噴水が開発された。

	A	B
1.	フランス平面幾何学式	ハハア
2.	フランス平面幾何学式	カスケード
3.	スペイン・サラセン式	カナール
4.	イタリア露壇式	ハハア
5.	イタリア露壇式	カスケード

〔No. 22〕 都市公園に関する次の記述のA、Bの数値の組合せとして妥当なのはどれか。

都市公園のうち、街区公園の標準規模は〔A〕haであり、近隣公園の標準規模は〔B〕haである。

	A	B
1.	0.25	1
2.	0.25	2
3.	0.5	1
4.	0.5	2
5.	0.5	4

〔No. 23〕 土壌に関する次の記述のうち妥当でないのはどれか。

1. 一般に土壌の色は、赤色や黄色より黒褐色の方が有機物に富んでいる。
2. 砂分の多い土壌ほど保水性が低い。
3. 土壌粒子の粒径は、粘土より砂の方が大きい。
4. 腐植は、土壌の団粒化や微生物の活動を抑制する。
5. 植物が利用できる土壌中の有効水分は、主に毛管水である。

[No. 24] 土壌の pH に関する次の記述のうち妥当でないのはどれか。

1. アルカリ性の強い土壌に対しては、一般にピートモスなどを混合して、pH を改良する。
2. 市街地では、コンクリートの構造物の影響や舗装による土壌の乾燥の影響などにより、一般に土壌が酸性化する傾向がある。
3. 土壌の pH は、数値が大きくなるほどアルカリ性が強くなる。
4. 酸性の強い土壌に対しては、炭酸カルシウムや水酸化カルシウムなどを混合して、pH を改良する。
5. 一般に、植物は pH 6～6.5 程度を好む。

[No. 25] 植物の生育と窒素に関する次の記述のうち妥当でないのはどれか。

1. 窒素を過剰に与えると、徒長や軟弱生育となり、耐病性の低下を招く。
2. ナス科植物は、土壌中の根粒菌と共生することにより、窒素が供給される。
3. 窒素は、植物が必要とする肥料の 3 要素の一つであり、残る 2 つはリン酸とカリウムである。
4. 植物体に取り込まれた窒素は、植物体を形成するタンパク質の一部となる。
5. 窒素が欠乏すると、全体的に生育が悪くなり葉の色が黄色くなる。

[No. 26] 次の記述の特徴を示す土壌改良材の名称として妥当なのはどれか。

ひる石を粉砕し、高温加熱処理をしたものであり、土壌の透水性の改善や、重粘土壌の通気性の改善に適している。

1. コンポスト
2. バーク堆肥
3. パーライト
4. バーミキュライト
5. ベントナイト

[No. 27] 花壇に用いられる草花の特徴に関する次の組合せのうち妥当でないのはどれか。

(植物名)	(種類)	(開花期)
1. コスモス	一年草	秋
2. シバザクラ	宿根草	春
3. マツバギク	一年草	秋
4. スイセン	球根類	春
5. パンジー	一年草	春

[No. 28] 次の樹種のうち、大気汚染に比較的強い樹種として妥当でないのはどれか。

1. ウバメガシ
2. キョウチクトウ
3. シャリンバイ
4. アカマツ
5. プラタナス

[No. 29] 木材に関する次の記述のうち妥当でないのはどれか。

1. 木材の外周部分を辺材と呼ぶ。
2. 辺材は赤みがかった色をしている。
3. 辺材は心材に比べて膨張や収縮の割合が大きい。
4. 板目材の樹皮側を木表、その反対の面を木裏と呼ぶ。
5. まさ目材は外観が美しく、伸縮の度合いも一様で変形が偏在しない。

[No. 30] 次の「石材の名称」と「岩石の種類」に関する組合せとして妥当なのはどれか。

	(石材の名称)	(岩石の種類)
1.	大理石	安山岩
2.	御影石	花崗岩
3.	六方石	凝灰岩
4.	大谷石	石灰岩
5.	鉄平石	玄武岩

[No. 31] 花壇に関する次の記述のうち妥当でないのはどれか。

1. 毛せん花壇とは、草丈の低い草花を密植して、花のじゅうたんを敷き詰めたようにデザインされた花壇のことである。
2. ボーダー花壇は、建物や塀、通路に沿って細長く設けられる花壇のことで、手前に草丈の低い植物、奥に高い植物を配置して、立体感を出すように作られる。
3. サンクンガーデンは、周囲より一段高いところに土を盛り上げて設けられる整形式の花壇のことを指す。
4. 立体花壇とは、硬質プラスチック製などのパネルにポット植えの草花をはめ込み、壁状や柱状、球状の形をつくる花壇のことをいう。
5. ロックガーデンとは、岩山を再現した岩組に、山野草や高山植物を植栽した花壇のことを指す。

[No. 32] 運動施設の舗装に関する次の記述のうち妥当でないのはどれか。

1. 天然芝系舗装は、転倒時の傷害防止に優れるが、入念な維持管理が必要である。
2. アンツーカ舗装は、降雨後の乾燥が遅く、冬季の霜害を受けにくい。
3. 樹脂系舗装は、選択できる色彩の幅が広く、硬度や厚みが自由に選べる。
4. クレイ舗装は、施工が比較的容易だが、乾燥するとホコリがたちやすい。
5. アスファルト系舗装は、耐久性に優れ、維持管理が容易である。

[No. 33] 樹木の支柱の施工に関する次の記述のうち妥当でないのはどれか。

1. 支柱の丸太は末口を上にして打ち込む。
2. 八ツ掛支柱は樹高 3 m 以上の高木に使用する。
3. 八ツ掛は控えとなる丸太を、幹または他の丸太と交差する部位の 2 箇所以上で結束する。
4. 布掛支柱は植栽を列状に配置したり、集団植栽するなど植栽間が狭い場合に適用する。
5. 支柱の丸太と丸太が接合する部分については釘をうち、鉄線で結束する。

[No. 34] 石材施工に関する次の記述のうち妥当でないのはどれか。

1. 組石とは、大きさの異なるいくつかの石を組み合わせる技術をいう。
2. 敷石には、真・行・草の 3 つの形式があり、真の形式には、切石を秩序立てて敷きつめる切石敷があてはまる。
3. 飛石は、日本庭園における苑路の手法。石の上面はなるべく平坦なものを採用する。
4. つくばいは、茶庭に設置する、修景のみを目的として作られるもの。
5. 滝に使用する石には、水を落とす水落石のほか、滝の上下に設置する波分け石、水受け石などがある。

[No. 35] 造園樹木の剪定に関する次の記述のうち妥当でないのはどれか。

1. 幹吹き、ひこばえ、徒長枝など樹勢を衰えさせたり、樹形を乱したりする枝は、取り除くのがよい。
2. 剪定は、樹木の美観・観賞面だけでなく、発芽や発根を促すなど生理・生育面などを考慮して行う作業である。
3. 長年同じところばかりを刈らずに、時には深く切り戻し作業を行って、不定芽の萌芽を促す。
4. 樹木の自然に備わった樹形を基本的に残しながら樹枝の骨格や配置をつくるための基本剪定は、樹木の生長が旺盛な夏期に行うのがよい。
5. 生垣の刈込みは、裾の美しい線を保つため、上枝を強く、下枝を弱く刈り込むのがよい。

[No. 36] 次の記述のような症状を示す樹木の病名として妥当なのはどれか。

葉の表、裏面あるいは針葉上に黄色の粉（病原菌の孢子）をふく。

1. うどんこ病
2. すず病
3. てんぐ巣病
4. さび病
5. こうやく病

[No. 37] 次の花木のうち、秋に剪定しても翌年の開花に及ぼす影響が小さい花木として妥当なのはどれか。

1. サツキ
2. ハクモクレン
3. クチナシ
4. アベリア
5. ハナミズキ

[No. 38] 高木の施肥に関する次の記述のA、Bに当てはまるものの組合せとして妥当なのはどれか。

は開花後や果実収穫後などに植物の回復のために行うもので、 の肥料が用いられる。

- | | A | B |
|----|-----|-----|
| 1. | お礼肥 | 遅効性 |
| 2. | 基肥 | 遅効性 |
| 3. | お礼肥 | 速効性 |
| 4. | 追肥 | 速効性 |
| 5. | 基肥 | 速効性 |

[No. 39] 樹木の掘取り及び運搬に関する記述のうち、妥当でないのはどれか。

1. 掘り上げた樹木は、樹勢の衰弱を防ぐため、鋭利な刃物で根の切り直しを行う。
2. 鉢径の定め方として、一般に高、中木では、根元直径の3～5倍が適当である。
3. 樹木の掘取りにおいて、強風により倒れる恐れがある場合は、仮支柱をつける。
4. 「ふるい掘り」は、太い根を切らずにその先端までたぐって掘り上げる方法で、特に活着が難しい樹木に適用する。
5. 「枝しおり」とは、移植樹木の運搬の際に支障となる枝をあらかじめ幹に縄で縛り付けておくことをいう。

[No. 40] 次のうち、都市公園法で占用が認められていないものとして妥当なのはどれか。

1. 公衆電話所
2. 電柱
3. 水道管
4. 郵便局
5. 催しで設ける仮設工作物